



PROGRAM NOTE

2016年12月

BCL対談 <未来を予測した山田耕嗣> 日本短波クラブ 大武逞伯&赤林隆仁

「BCLの神様」と言われた山田耕嗣氏は数々の名言や予測も残した。BCL ブームの頃軍用受信機の P600JX や 51J-3 を「BCL ラジオとしてはなかなか良い」と評価して多くの BCL を驚かした。感化を受けた赤林氏は就職してもらったばかりの初月給を全てつぎ込んで中古の R-390A/URR を購入した。また山田氏はラジオに関する未来予測も行った。1979年に「21世紀のラジオ受信機はどこまで進歩するか?」という題名で 10 の予測を行い、これは当時の雑誌にも掲載された。

- ミニカード型ラジオ: 山田説:** 名刺サイズで TV もラジオも受信できるラジオができる。**現状:** 1980 年代には SONY からカードサイズのラジオが発売された。810kHz 専用の「FEN(現 AFN)しか聞かん」などというラジオも発売された。短波専用の「HCJB しか聞かん」というようなラジオはついに発売されなかった! 受信専用アプリを搭載したスマホもこの範疇に入るのかも知れない。
- 遠隔制御装置付ラジオ: 山田説:** 巨大容量の回線上に放送を乗せていつでも受信できるようにする。**現状:** これはインターネット放送そのものであり。見事に的中! でもご本人はインターネット放送はあまりお好きではなかったようだが。
- PCM ラジオ: 山田説:** デジタル化ですばらしい音質の短波放送が行われる。**現状:** ノイズやフェーディングに悩まされていた山田氏の苦悩が伺える。一応 DRM 放送として実現されてはいる。短波の場合、受信機がない、信号が途切れる、広い帯域を必要とする等の問題があり普及はしていない。
- 国際ポルノ・テレビ: 山田説:** 21世紀になってもポルノが解禁されない日本に向けてスウェーデンから国際ポルノ TV 放送が行われる。**現状:** 「スウェーデンからポルノ」というのが時代を感じさせる。当時 BCL の間では「スウェーデン ポルノより SCDX」(SCDX は故 Arne Skoog 氏担当の Radio Sweden 人気 DX 番組 Sweden Calling DXers のこと)という言葉もあった位である。確かに 21世紀になった現在も日本ではポルノは解禁されていない。但しスウェーデンからではないが似たような衛星放送は既に実現している。
- 文字受信のラジオ: 山田説:** ラジオで文字画面の放送を受信できるようになる。**現状:** その後 FM 放送の空き領域を使った文字放送が実現したが終了した。また短波では DRM 放送や VOA の Radiogram でも同じ事ができるようになったが、スマホの普及でニーズがあまりない。
- 翻訳装置付きラジオ: 山田説:** 何語放送でも日本語に翻訳してくれるラジオができる。**現状:** 訳のわからない言語の放送に苦闘する BCL の悩みを代弁してくれた。現在短い会話用の自動翻訳機は出現、スマホへの内蔵も検討されている。しかし山田氏の望んだようにアムハリ語でもケチュア語でも自動的に判断して正確な日本語に訳してくれる代物は未だである。でもそんなものがいたら今度は「BCL はそんな甘いもんじやない!」とおっしゃるのではなかろうか!
- 超高速受信ラジオ: 山田説:** 1秒間受信するだけで後で 1 時間ゆっくり聞ける放送が実現する。**現状:** これは正に「ポッドキャスト」をそのものであり。すばり的中!
- 地軸通過電波と地中アンテナ: 山田説:** 地中に刺したアンテナで地球の反対側の局を安定受信できる。**現状:** 不安定な RAE の日本語放送にさんざん悩まされたあげくの逆転的発想。実は「地中通信」という分野で研究が進められている。電波はマグマの中は伝わらないが、地下の岩盤の間は伝わるとのことである。実現してはいないが発想はユニーク。
- 国際多重放送の実施: 山田説:** LSB と USB で 2 チャンネルの短波放送を同時送信するようになる。**現状:** 技術的には十分可能で、一部の中継回線では実施例もあるが定常的には行われていない。当時は短波帯が混雑し世界的に短波放送の SSB 化が検討され、すぐにも実用化されるように見えたが、短波利用の衰退と受信機の問題で流れてしまっている。
- 海外放送のステレオ受信: 山田説:** オランダ放送の「Happy Station」はステレオ短波放送となる。**現状:** 「Happy Station」は Tom Meyer 氏が長年担当した 1970 年代オランダ放送の人気 DJ 番組であった。現在はそのオランダ放送自体が無くなってしまった! 技術的には問題なく実現可能で、既に中波帯の AM ステレオ放送が日米で実現した(日本では終了傾向にある)。1990 年代に短波でも実施を試みた局があったが、送信品質、送信機・受信機コストの点で実現は見送られた。podcasting やインターネット放送、DRM 放送ではステレオ放送を行っている局もある。

当時は「途方もない面白い発想」だったかも知れないが、結構実現済のものが多く、全く外れたものはない。山田氏は文学部卒で理科系・技術系ではない。未来予測では「裏を取る」ことも難しいが、BCL の方法論だけでなく、このように色々な方向の発想をめぐらして、かなり的確に「予言」する能力を持たれていた点も「BCLの神様」と言われる所以かも知れない。

サタデー・トーク

バイブル・トーク

きき手 尾崎一夫 毎週土曜日放送		淀橋教会 峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送	
12月03日	四国・中国 HCJB リスナーの集い(2)	12月04日	金の蛙(植物園)／聖地ひとり旅
12月10日	BCL 対談: 山田耕嗣氏を偲んで(1) 大武&赤林	12月11日	リスナーからの「お便り交換の時間」
12月17日	BCL 対談: 山田耕嗣氏を偲んで(2) 大武&赤林	12月18日	クリスマス・ファンタジー『迷子の天使』
12月24日	南半球オーストラリアからメリークリスマス	12月25日	クリスマス特別メッセージ 峯野龍弘主管牧師
12月31日	Reach Beyond は今・・・2016年を振りかえって	2017年元旦	新年明けましておめでとう 峯野龍弘主管牧師

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.reachbeyond.jp>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。(mp3 形式)

放送時間: 日本時間 午前 7 時半~8 時 17760kHz (再放送) 午後 7 時 55 分~8 時 25 分 15400kHz
(米国アリゾナ州制作/オーストラリア送信)

